



生き生きとした自分を見つめるための実用生活誌

はじまりのページ

Shukokai-Magazine The page of beginning

2022 Summer NO.60

治癒のヒント

Case Report
Protocol D

ダイジェスト版

絶望の淵に 差し込んだ光

特別企画

夏の紫外線もなんのその——
体験者が語る
『再生医療であこがれの
“美肌”になる』



絶望の淵に 差し込んだ光

加藤 絢香さん(仮名) 31歳 愛知県

HITV 療法の最新バージョンである「プロトコール D」。従来の HITV 療法と異なり、放射線療法とのコラボレーションが不要な（放射線を併用するケースもある）ことから、体への負担がさらに軽減——。体力的に減退しやすい第 4 期のがんの治療法として最適な免疫療法といえるのではないのでしょうか。HITV 療法・プロトコール D で治癒へ向かう患者様のエピソードから、〃治癒に役立つヒント〃を模索する本コーナー。今回ご登場いただくのは、「進行性子宮頸がん（扁平上皮がん）」で HITV 療法を受けた加藤絢香さんです。体の不調は以前からあったといいます。

尋常ではない出血

「10 年ほど前からでしょうか。不正出血が続くようになりました。けれど……」と、加藤さんは声を落としました。

「病院では『びらん』^{※1}という診断でした。会社の定期健診では『がんの一手手前』といわれましたが、治療については特に指示もなく、経過観察のまま時が流れました」（加藤さん）

びらんは治癒と再燃を繰り返す、その間、不正出血はずっと続いていたといいます。不快で憂鬱な日々……。いい加減うんざりしていた昨年の 7 月、急な体の異変に襲われたといいます。

「出血がひどくなって……握りこぶしぐらいの血塊（^{けっかい}血液のかたまり）が出るようになってしまったのです。これは尋常ではないという思いが脳裏を走り、青ざめました」（加藤さん）

救急車で運び込まれた病院で、『子宮頸がんの第 4 期』と診断されました。

※1 びらん：皮膚や粘膜の表皮が欠損し、下部組織が露出した状態。いわゆる“ただれ”。ただし、子宮腔部びらはただれているという意味ではなく、びらんのように見える場所があるという意味。性成熟期の女性の 8～9 割にみられるという

惑星も人間も同じ意思から

蓮見賢一郎 医療法人社団 珠光会 理事長

今年の関東甲信地方の梅雨明けは、6 月 27 日でした。統計がある 1951 年以降もっとも早い梅雨明け。期間も最短だったそうです。しかも、梅雨明け当日、栃木県の佐野市で記録した最高気温が、観測史上 2 番目の 39.8℃だったのですから、驚きを通り越してなんだかあきれてしまいます。

しかし、地球温暖化による異常気象は、もちろん、そんな悠長なことを言っている場合ではありません。このまま気温が上がり続けると、海面上昇の影響で海抜の低い陸地は水没。河川の氾濫や台風、洪水、干ばつなどの自然災害が頻発するようになり、中国北部などは、人間の生存限界を超える湿球温度 35℃近い熱波に襲われる可能性もあるといわれています。

国連 IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は、2007 年に「地球温暖化は人間の活動の影響である」とほぼ断定しましたが、こうしたトピックに触れると、1960 年代に話題になった「ガイア理論」を思い出してしまいます。

ガイア理論は、地球を「巨大な生命体」と捉え、地球は生物と相互に関係し合い、地球自身の生存に適した環境を維持するためのシステムを作り上げているという仮説です。この理論自体は科学的とはいえない難い部分があり

ますが、のちの地球システム科学、生物地球化学などの新しい学問分野の発展に大きな影響を与えたといわれています。

ガイア理論が流行した当時、人間を地球に侵入した病原菌になぞらえ、人間に感染した地球は、（人間を）排除するために、地球の免疫反応というべき巨大な自然災害を引き起こすだろう」と唱えた人がいたように記憶しています。

地球を生命体と捉えたとき、人間を病原菌にたとえるのはわかりやすい比喩ですので、それなりに説得力がありますが、ひとつ忘れてはならないのは、当たり前のことながら、人間は細菌やウイルスと異なり、感情や思考を兼ね備えているということ。人間は地球を侵食する病原菌にもなれるし、侵食を予防・治療する医師にもなれるというわけです。最終的に人間がどちらを選ぶのかは、今後長い時間をかけて検証されるでしょう。

もちろん、私は医師ですので後者だと信じています。地球が生命体だとしたら、惑星の不調を癒すことも人間を治療することも、詰まるところは同じ意思から出発しているのかもしれない。猛暑の波が引いた宵の口、ふとそんなことを考えてしまいました。

CONTENTS

2 思いの言の葉 Vol.54
惑星も人間も同じ意思から

3 治癒のヒント
Case Report Protocol D

絶望の淵に
差し込んだ光

7 特別企画 夏の紫外線もなんのその——
体験者が語る

『再生医療であこがれの
“美肌”になる』

12 連載コミック
第55回 ほのぼのJiJi・BaBa 松 & 梅

13 珠光会通信

Cover Illustration: Madoka Momota

「がんは膀胱へも浸潤しており、最大径は9センチほど。切除可能な範囲を超えているので手術はできない。治療は抗がん剤と放射線治療を併用し、腫瘍の縮小を目指す……と医師に告げられたのです」（加藤さん）

突然の宣告に衝撃を受けるも、そのときは貧血の度合いを測るヘモグロビンの数値が2・8まで下がっていました（表1）。すぐに輸血が必要なほど重度。意識が朦朧とし、がん宣告の重みを理解する余裕もなかったとい

ヘモグロビン値（g/dL）	重症度
11.4以上	貧血はありません。
10～11.4未満	軽い貧血があります。お食事などで鉄分を意識的に補いましょう。
7～10未満	強い貧血があります。お食事に頼らず、まずは病院で検査・治療を受けましょう。
5～7未満	輸血が必要な重症の貧血です。直ちに医師に相談してください。

※基準値は施設ごとで異なる場合があります。

います。

「輸血には抵抗があつて。医師に、数値が回復するかもしれないので2、3日待つてほしい……とお願いしました。しかし、医師から輸血をしないと治療を進められないと説得されて承諾し、併せて、がんの治療も始めてもらうことにしました。」

入院中、病気や治療法などの医学的な知見や、食事・サプリなど日常生活の知識など、さまざまなことをリサーチしました。なかには絶望感を覚える情報もありましたが、前に進むためにはそれも受け入れざるを得ませんでした。

長年交際していた恋人とは、この病気を機に結婚しました。主人や家族の支えがなかったら、私の心はどこかで折れていたに違いありません」（加藤さん）

標準治療の限界は最初に医師が説明した通り……。がんを治癒させるためには、標準治療を超える何かが必要でした。インターネットには多種多様な治療法が紹介されていましたが、腑に落ちるものはありませんでした。そんなある日、目に留まった動画がありました。蓮見賢一郎先生のがん治療を解説したユーチューブでした。

「見つけたのは退院の1週間前でした。題名は

いいいます。

「主治医は（HITV療法に）好意的で、ICVS東京クリニックの治療を考慮して抗がん剤の予定を調整してくれたりします。放射線治療は昨年1回のみ、その他は治療歴はありません。」

医師からいきなり突き付けられたがん宣告、そして、手術ができないという現実が理解できたとき、私は真つ暗な絶望の淵に突き落とされました。HITV療法はその暗闇の中で見つけた光でした。1月に樹状細胞の治療を受けなければ、私は今頃どうなっていたでしょう……。そう考えるたびに、HITV療法に出会えたことへの感謝の念が湧いてきます」（加藤さん）

『人生は出会いで決まる』といったのは、オーストリアのマルティン・ブーバー（宗教哲学者・社会学者）ですが、加藤さんは「ご自身が納得する治療法を探し続けることで、良き出会いを得たのです。」

「実は私も細々とはありますが、SNSをやっております。自分の経験が同じ病気で悩む誰かのお役に立てたら嬉しいです」（加藤さん）

HITV療法を杖に、治癒への道を一步一步進む加藤さん。加藤さんが発信する言葉が、誰

忘れてしまいましたが、蓮見先生が施術している免疫療法が網羅的に紹介されていたのです」（加藤さん）

ユーチューブで閲覧できる蓮見先生関係のコンテンツは、海外からアップされたものを含めると相当数あります。そのうち、蓮見先生の治療法を体系的に解説しているものとなれば、『珠光会の歴史と未来』（2017年）か『HITV療法の歴史と未来』（2018年）か……。いずれにしろ、加藤さんはようやく心に響く治療法と出会ったのでした。

樹状細胞投与後に現れた効果

「ハスミワクチンの存在は以前から知っていましたが、動画を見て改めて効果を確認し、まずそこから始めてみようと思いました。受診の際、HITV療法についても説明していただきましたが、まずハスミワクチンで免疫力を上げ、体調を万全にしてからHITV療法へ進みたいと考えていたのです」（加藤さん）

加藤さんの思惑通り、一時腫瘍は縮小したといえます。ところが昨年の夏頃に行った放射線と抗がん剤の併用療法を機に再燃……。急遽治療方針をHITV療法に転換し、アフエレー

かの心に光となって差し込むことを願ってやみません。

「ICVS東京クリニックの看護師さんは、（注射のとき）血管を一発で仕留めてくれるのです」

そう言いながら、加藤さんは微笑みました。ICVS東京クリニックは医療のみならず、看護もハイクオリティであることを最後に付け加えておきます。特に注射嫌いの方のために――。

現在、抗がん剤を受けながら2回目の樹状細胞投与を待つ加藤さん（本稿執筆時）。抗がん剤は、HITV療法開始時にはすでに行っていたので、その流れで継続していると

「不正出血は樹状細胞投与の2週間後あたりから目立たなくなりました。長年悩まされてきた症状から解放され、本当にうれしかったです」（加藤さん）

「人生は出会いで決まる」といったのは、オーストリアのマルティン・ブーバー（宗教哲学者・社会学者）ですが、加藤さんは「ご自身が納得する治療法を探し続けることで、良き出会いを得たのです。」

※3 アフェレーシス：未成熟の樹状細胞、メモリーT細胞の基となる単核球、細胞培養の基となる血漿などを採取する治療工程。時間は2時間～3時間を要する

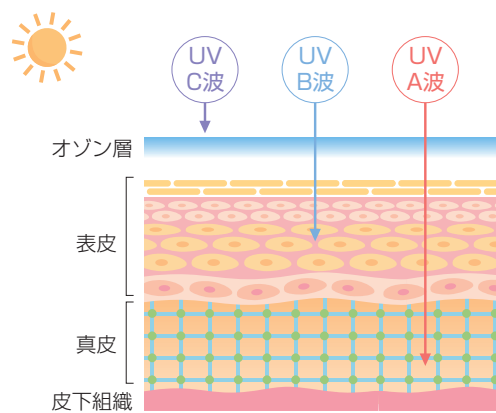
※2：本文に上げた2編は、Web サイト『免疫療法コンシェルジュ』の「がんの治療・ケア教室」で閲覧可能。また、「紀尾井フォーラム・定期健康講座」では、がんや成人病等々、健康生活に役立つ知識を第一線の講師が解説している『免疫療法コンシェルジュ』<https://wellbeinglink.com/>

夏の紫外線もなんのその—— 体験者が語る

『再生医療であこがれの “美肌”になる』

言うまでもなく、夏のスキンケアのポイントは紫外線対策。紫外線を浴びすぎると肌のシミやシワ、タルミの原因となるのみならず、皮膚がんや白内障、免疫力の低下など健康にも悪影響を及ぼします。弊誌夏号の＜特別企画＞として、紫外線対策に併せスキンケアに効力を発揮する再生医療——「幹細胞培養上清液療法」の最新知識を、実際に治療を受けているお二人の取材を交えて解説します。

図1 紫外線の種類



紫外線にはA波、B波、C波という3種類の波があります(図1)。A波は1年を通じて天候や季節に関係なく降り注いでいる紫外線。紫外線のなかでは有害性が少ないといわれていますが、皮膚のコラーゲンを破壊する性質がありますので、浴びる量によってはシワやタルミの原因になりかねません。B波は一番気をつけねばならない紫外線です。シミやシワなど美容的な側面のみならず、皮膚がんや白内障、免疫力の低下など健康面でも悪影響を及ぼします。紫外線は波長が短いほど肌に及ぼす影響が大きいとされていますが、3つの波の中で一番波長が短いのがC波です。オゾン層によって地上にはほとんど届いていませんが、オゾン層の破壊が進む現在、その脅威は年々高まっていると言えるでしょう。

夏場の紫外線対策と 皮膚のバリア機能

監修:ICVS Tokyo Clinic V2

菅原 悠先生



臨床診断：子宮頸部がん／病理診断：扁平上皮がん／病期：IVA (cT4N1M0)

臨床経過

2021年夏、貧血のための精密検査で進行性子宮頸部がんが発見され、病巣はすでに膀胱まで浸潤していた。8月から放射線治療(60Gy)と抗がん剤治療を開始。しかし、その年の11月のMRIによる評価では、病状はかえって進行して、病巣は膀胱壁と同時に膣壁へも広がり、骨盤リンパ節転移も増大。知人の紹介でHITV療法を希望して受診。

すでに放射線治療が終了しているため、抗がん剤との併用でプロトコルDによる治療を選択。12月にアフエレーシス、2022年1月に樹状細胞投与を行った。3月の中間評価では、治療部位の病巣は全体に縮小方向に向かい安定していたが、5月の画像評価の段階では原発巣の子宮頸部は順調に縮小しているものの、右骨盤リンパ節の悪化を認めた。これにより、右足からの血液還流が低下して浮腫が増悪。さらに左骨盤及び鼠径部のリンパ節に新病巣を認め、腫瘍マーカー(SCC)も上昇していた。

急遽CTLアフエレーシスを行い、血液から大量にCTLを増幅して6月に投与を行った。その後の経過は良好で、7月の画像検査では子宮頸部の原発巣、膀胱浸潤部、右骨盤リンパ節などで縮小または消失している。

●蓮見先生のコメント

がん病巣の中には標準治療に抵抗し、病状のコントロールがなかなかうまくいかない場合があります。樹状細胞治療を中心としたプロトコルDは、2004年から昨年まで行ってきた放射線治療との併用によるプロトコルAと異なり、治療内容がシンプルで、且つ副作用が極めて少ない点に特徴があります。そのため、80歳を超える高齢の方や、心肺系に基礎疾患をお持ちの患者様に特に適応があるかと思います。また治療が簡素化したことによる経済的な負担軽減も期待できるようになりました。免疫療法の最大の特徴は、一旦制御された病巣は再燃しにくい点にあり、緩解と増悪をくり返すことがあまりありません。そのため、治療を重ねるごとに、その有効性が保証されるため、蓄積効果として治癒を目指すことが可能となります。現在は3ヶ月毎に3回の治療で治癒を目指すことを目標としており、1回目の治療での達成度を50%、2回目で80%、3回目で100%の有効性を想定しています。

加藤さんの場合は、右骨盤リンパ節への転移のコントロールが、治療上の最大のポイントになりました。これに失敗すると全体の病勢をコントロールできなくなり、治療に負けてしまう結果となります。常にある同部の痛みと次第に悪化する右足の浮腫が患者さんの悩みでした。この6月の2回目の治療でこれらの問題が解決でき、治癒に近い状況まで到達することができました。9月に微小転移の最後の仕上げをして、治療開始後1年となる年末には治癒を達成したいと考えています。

進行がんの最大の特徴は、転移の状況やがん細胞の性格などにより、病態が千差万別であることです。そのため、個々の病状に合わせて治療計画を立てることが必要となります。また標準治療との併用が可能であれば、なるべく短時間で腫瘍縮小の環境をつくることも大切です。未だ適応範囲の問題もありますが、人類の夢のひとつでもある、副作用のない、免疫治療のみによる腫瘍消失の時代が近づいていることを実感しています。



2021.11.22 MRI(治療前評価)



2022.03.08 MRI(治療後中間評価)

幹細胞培養上清液療法とは？

図3 幹細胞培養上清液とは

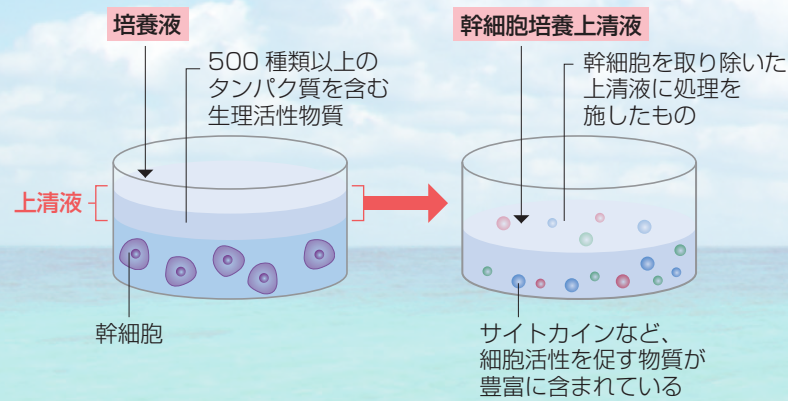


表1 「幹細胞培養上清液」に含まれる主な生理活性物質と効果

・VEGF(血管内皮細胞増殖因子)	発毛、育毛、ゴースト血管(血液が流れなくなった血管)の抑制など
・IGF(インシュリン様成長因子)	皮膚再生、シワの改善、皮膚の張り・弾力の改善など
・PDGF(血小板由来成長因子)	細胞分裂の促進、損傷組織の増殖・再生など
・EGF(上皮成長因子)	表皮代謝、シミ、くすみ、シワの改善など
・TGF- β /TGF- α (トランスフォーミング成長因子)	抗炎症、細胞の増殖促進、皮膚・皮下組織の損傷回復など
・HGF(肝細胞増殖因子)	組織の再生・活性化など
・KGF(ケラチノサイト成長因子)	発毛、育毛など

※神経系栄養因子による神経幹細胞の増殖促進・活性化、神経細胞の分化・成長促進、神経伝達物質の合成促進などにより、「アルツハイマー病」「認知症」などの予防・改善などの効果も期待されています。

「幹細胞培養上清液療法」とは、再生医療の分野である「幹細胞療法^{※2}」から生まれた治療法です。脂肪や臍帯などの間葉系幹細胞の培養液から幹細胞を取り出したのち、不純物の除去・滅菌などの処理を施した液体(上澄み液)である「幹細胞培養上清液」(図3)には、細胞から放出された500種類以上のサイトカイン(増殖因子、免疫調整因子、神経再生因子など)が豊富に含まれていると言われています(表1)。

サイトカインには、損傷部位の機能回復に重要な役割を果たしたり、老化などによって衰えた細胞の回復を促したりする効果が期待されています。

また、加齢とともに減少していくことがわかっていて、特に赤ちゃんの肌に多く含まれる「Ⅲ型コラーゲン」が、当院の上清液に非常に多く含まれていることがわかっています。

この幹細胞培養上清液を用い、さまざまな病気や不調の改善、美容効果を促そうというのが、「幹細胞培養上清液療法」です。特に美肌に対しては先に紹介した「ターンオーバー」を正常化・促進させることから、「皮膚再生」「シミ、くすみ、シワの改善・予防」などさまざまな効果が期待できます。また、「発毛・育毛」などの効果を目的として受診する方も増えています。

こうしてできたシミ、シワ、タルミなどを治療する手段として、現在さまざまな美容医療^{※1}が登場しています。再生医療のひとつである「幹細胞培養上清液療法」を用いた方法もその一つであり、「ICVS Tokyo Clinic V2」は同療法の実践医療施設として着実

な成果を上げています。次ページからは、幹細胞培養上清液療法^{※2}の美肌・アンチエイジング効果を、実際に「ICVS Tokyo Clinic V2」で治療を受けていらっしゃるお二人のインタビューと共に解説します。

ことに他なりません。具体的には、次の4つの対策が効果的です。

●対策1▼日焼け止めを塗る

曇りで日差しが届いていなくても紫外線は降り注いでいるので、外に出るときは、日焼け止めを塗るようにしましょう。スポーツをする、長時間外出するなどのときは、汗や皮脂で日焼け止めが落ちてしまいますので、2〜3時間を目処に塗り直した方が良いでしょう。

●対策2▼日傘を活用・長袖を着用

日傘は体を全体を隠してくれる大



きさのものを、長袖は生地が薄手で通気性の良いものを選びましょう。

●対策3▼帽子・サングラスを利用する

紫外線は目からも吸収されます。帽子で20%、サングラスで90%ほど目からの吸収をカットできると言われていますので、まぶしさ対策のみならず、紫外線防止の観点からも帽子、サングラスの着用をお勧めします。

●対策4▼外出の時間帯を選ぶ

午前10時から午後2時までの間が、一日のうちで最も紫外線が多い時間帯。この4時間が一日の照射量の半分以上を占めているといわれています。夏場は一番危険なB波が降り注いでいますので、この時間帯の外出は避けた方が無難です。肌の瑞々しさを保つ「バリア機能」を担っているのは、表皮の一番外側で外界と接している「角層」です。具体的には角層細胞内の「天

然保湿因子(NMF)」が保持する水分、角層細胞間を満たす「細胞間脂質」による隙間ない構造、角層表面にある「皮脂膜」の連係プレーにより、外界の刺激から皮膚を守る役目を果たしているのです(図2)。

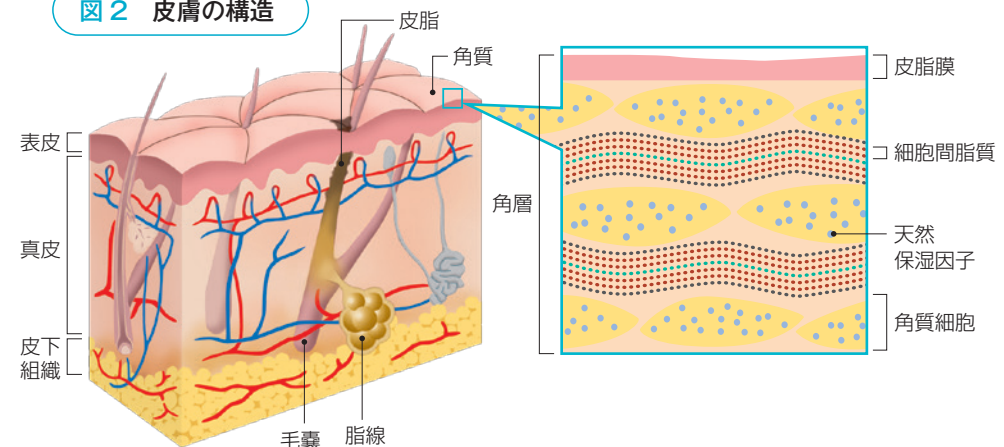
皮膚のバリア機能は加齢とともに低下していきます。天然保湿因子や細胞間脂質が減り、皮膚が乾燥しやすくなることによって、紫外線など外界の影響から皮膚を守りにくくなってくるのです。

また、肌の細胞は一定の周期で生まれ変わる仕組み(ターンオーバー)を有していますが、加齢は



Illustration: はるうらら

図2 皮膚の構造



この皮膚の再生能力も減退させます。20代の頃はおおよそ28日周期だったものが、40代では約40日周期ほどになってしまふのです。お肌のダメージは益々解消されにくくなっていきます。

※1 美容医療：加齢などによって損なわれた皮膚の機能などを適切な状態に戻す治療の総称。日本医師会によって定められた標榜診療科名ではない

※2 幹細胞療法：失われた細胞を再生する能力を持った「幹細胞」を用い、病気やけがで失われた細胞を補い、損傷部を修復・再生させることを目的とした療法

体の内側から 肌を健康にする

——現在、美肌に関する施術法はクリームなどの手軽な方法から、レーザー照射やヒアルロン酸といった少々手間がかかるものなど、さまざまな手法があります。それらのなかから幹細胞培養上清液療法を選ばれた理由というのは、どんなことなのでしょう？

山本さん「幹細胞培養上清液療法を紹介してくれたのは、娘なんです。娘は現在33歳ですが、むかしからスキンケアには興味があつて、さまざまな方法を試していました。そんな娘が、これすごくいいよ、というて推薦してくれたのが、自身が通院している「ICVS Tokyo Clinic V2」の幹細胞培養上清液療法でした。

私はもともとスキンケアにはそれほど興味がなかったのですが、年と共に衰えは感じており、そろそろ何か……とは考えていました。大げさなものは嫌でしたが、娘から幹細胞培養上清液療法なら手軽に受けられると聞き、ならば試し

てみようと思ったのです」

加賀さん「私も年齢からくる衰えを感じ、たびたびスマホなどで手軽で効果的なスキンケアを検索していました。ある日、幹細胞培養上清液療法という言葉を見つけ、興味を持ちました。そんなとき、山本さんから幹細胞培養上清液療法を受けるというお話を聞き、ならば私も一緒にしたいとお願いしたのです」

山本さん「私と加賀さんはもともと着付け教室のお友達でした。他に

も仲の良いお友達がいて、コロナ前には夏は浴衣、春秋は着物を着てお食事や旅行をしていました」

なく、皮膚にダメージを与えるような処置もない。体の内側から若い頃の皮膚が自然に蘇ってくるというシステムが、とても健康的に思えました。副作用がほとんどないというのも嬉しいですね」

手軽で確かな アンチエイジング法

——幹細胞培養上清液療法の治療は、どんなふうに行われるのでしょうか？

山本さん「シミとかシワとか……自分の気になる場所に培養上清液を注射で注入します。1回の使用量はだいたい1〜3cc、それを分けて用います。受診は月に1度のペースです」

——治療に用いる注射針は痛みの軽減のため大変細いものを使っているそうです。実際、痛みを感じたことはありませんか？

加賀さん「最初は少しチクツとしますが……痛いと思ったことはありません」

——治療の効果が現れるまで、日数的にどのくらいかかるのでしょうか？

を気にされている方はたくさんいらっしゃると思います。何かアドバイスのようなものがあればお聞かせください。

加賀さん「幹細胞培養上清液療法は、山本さんのように比較的短期間で効果が得られる人もいれば、私のように満足のいく結果が現れるまで、多少時間がかかる人もいます。結果が出ることは、傍らの友人を見れば明らかなので、焦らず（治療を）積み重ねたいと思います」

山本さん「私も積み重ねることが大切だと思います。幹細胞培養上清液療法の特徴は、体の内側から皮膚を健康に蘇らせることだと思っています。体内環境は人それぞれだし、年齢や生活環境にも個人差があるので、効果の出現がまちまちなのは当たり前です。だからこそ、続けることが大切なのだと考えています」

——自分自身の機能を用い、若い頃の皮膚を蘇らせる幹細胞培養上清液療法。手軽で確かなアンチエイジング法として、今後益々認知されていくことでしょうか。

若い頃の張り・つやが蘇る——

“幹細胞培養上清液療法”で 体の内側から 肌をキレイにする

Culture supernatant fluid
Skin care

今回お話を伺ったのは山本 初音さん（仮名・63歳）と加賀 祥子さん（仮名・74歳）。山本さんは1年ほど前より、加賀さんは半年ほど前より幹細胞培養上清液療法を施術しているそうです。

ですが（笑）。山本さんを見てみると、治療を続けていれば自ずと結果はついてくると感じますので、変化を楽しみながら（治療を）続けたいと思います」

——治療に要する時間は、どれくらいなのでしょう？

山本さん「10分程度ですかね。予約制なので待合で待つこともありません。治療が短時間で済むことも嬉しいポイントのひとつですね」

加賀さん「治療後、一緒にランチに行くのが楽しみなのです。むしろ、

そちらが目当てで治療に通っている気もしますね（笑）」

——そういう楽しみはとても大切ですよ。幹細胞培養上清液療法以外に実践しているスキンケアはありますか？

山本さん「ICVS Tokyo Clinic V2」で取り扱っている美容液を朝と晩の2回つけているだけです。その他のメンテナンスは化粧水とか……ごくごく一般的なやり方です」

——最後になりますが、皮膚の老化



ICVS Tokyo Clinic V2 で取り扱っている美肌美容液「シーブログラム スムースセラム 30ml」

珠光会通信

Shukokai Communication

Information

Webサイト『免疫療法コンシェルジュ』に HITV療法で治癒に至った元患者様の動画をアップ

●一挙に 2 編を同時公開

本年 6 月下旬、Web サイト『免疫療法コンシェルジュ』に HITV 療法で治癒に至った元患者様の動画が、2 編同時にアップされました。『免疫療法コンシェルジュ』は、免疫療法をはじめとするがんの治療法や療養法、さらに、生活習慣病等の健康知識など、みなさまの健康長寿に資する情報提供のために、2015 年より活動を開始した Web サイトです。

今回公開されたのは“「私が受けた HITV 療法」Case001 ～遠藤純（仮名）さんの場合”と“「私が受けた HITV 療法」Case002 ～岡野あきら（仮名）さんの場合”の 2 編――。

遠藤純さんは 12 年前に両肺と脳に転移したがんが発見され、ステージⅣと診断されました。その後 HITV 療法を受診し寛解。現在も、ゴルフなどの趣味に元気いっぱいに取り組んでいます。

岡野あきらさんは 5 年前に S 状結腸がんのステージⅣと診断されました。その後、HITV 療法によって寛解。現在はライフワークである空手で、有意義な生活を送っています。

両作品とも良質なドキュメンタリーに仕上がっており、見応え十分。元患者様の興味深い人間ドラマに見入っているうちに自然と HITV 療法の仕組みが理解できる内容になっています。がん治療の生きた指針として、ぜひご覧ください。

免疫療法コンシェルジュ：https://wellbeinglink.com

※トップ画面の『がんの治療・ケア教室』からお進みください



Case001～遠藤純(仮名)さんの場合



Case002～岡野あきら(仮名)さんの場合

第55回

ほのぼのJiJi・BaBa

松 & 梅



頑固じい



小林 裕美子

マンガ家／イラストレーター
東京造形大学・デザイン学科卒業。イラストレーターとして、実用書や児童書、雑誌、WEB媒体、新聞等に挿絵やマンガを描いている。『美大デビュー』（ポプラ社）、『もち・ぼち』（徳間書店）、『親を、どうする？』（実業之日本社）、『私、産めるのかな？』（河出書房新社）、『親が倒れた！桜井さんちの場合』（新潮社）、『産まなくてもいいですか？』（幻冬舎）等、著書多数。

体操の掛け声



免疫力が低下する季節—— アジュバント療法で乗り切ろう

1 年を通じ、免疫力が一番低下しやすい季節が、実は“夏”だということをご存じでしょうか？ 例えば、建物内外の温度差——。屋外は皮膚が焼けるような暑さにもかかわらず、屋内は冷房の効きすぎでキンキンに冷えているといった環境では、体温を調節する自律神経のバランスが乱れ、免疫力の低下を招いてしまいます。また、夏は冷えた飲み物やアイスクリームなど、冷たい飲食物を多く摂りがちなので、腸が冷やされて活動が減退する場合があります。腸管には免疫を担う細胞の 60 ～ 70% が存在しているので、腸の活動が鈍れば免疫力も下がってしまうというわけです。

免疫力が減退しがちな夏にお勧めな療法が、『HASUMI 免疫クリニック』で行われている「アジュバント療法」——。夏の特別企画として、同療法の概要を解説します

●免疫機能を向上させ、健康増進を図る

故蓮見喜一郎博士がワクチン研究に着手したのは 1931 年——。1948 年に行われた「ハスミワクチン」の臨床応用に至るまでの期間、蓮見博士が心血を注いで開発に勤しんだもののひとつが“アジュバント”でした。

アジュバントとは、薬物の効力を向上させる“補助剤”の総称。ラテン語の“adjuvare（助ける）”に由来しています。免疫療法では免疫反応を増強させる“免疫賦活剤”として用いられており、ワクチンの効き目を長持ちさせたり、免疫系の細胞を活性化させたりする効果が見込まれています。“主剤”の効き方を左右する鍵となる物質といってよいでしょう。

ハスミワクチンは長年にわたり 5 日毎に体内へ注入する必要がありますので、蓮見博士が考えたアジュバントの第一義は“安全性”でした。蓮見博士はさまざまな素材でアジュバントの適性を調査しましたが、最後に選んだのは牛の脾臓でした。牛の脾臓から抽出された“ウシ脾臓由来脂質”が最もアジュバント効果が高く、毒性が低かったからです。

牛の脾臓をもとに開発されたアジュバントは高い免疫賦活効果を発揮し、ハスミワクチンはがんの予防のみならず、腫瘍縮小などの治療効果が認められる場合も少なくありませんでした。

このハスミワクチンのアジュバントを用い、“免疫機能を向上させることで健康増進を図ろう”というのが、アジュバント療法の趣旨です。

●樹状細胞に働きかける“新アジュバント”

蓮見博士が開発したアジュバント——。しかし、生物由来の物質には弱点もありました。そのひとつが安定性です。

生物由来の物質は、厳格に考えれば品質が一定に揃わない可能性があるのです。もちろん、確率的には非常にレアなケースですが、人に用いる以上、どんなマイナス要素も排除しなければなりません。

そこで試みられたのがアジュバントの合成化でした。研究は蓮見癌研究所を主体として進められ、米国メリーランド州立大学の免疫活性試験などを経て、2015 年 5 月より合成型アジュバントを用いたハスミワクチンが実用化されたのです。

蓮見癌研究所などの調査により、合成型アジュバントが従来型アジュバントより“樹状細胞の機能を亢進させる機能を有している”ことが認められています。樹状細胞は、がん細胞などの“異物”の情報を攻撃担当の免疫細胞に伝達するなど、免疫システムの要となる役目を担っており、免疫の“司令塔”とも呼ばれています。こうした樹状細胞の動きを合成型アジュバントが促進しているのです。

アジュバント療法には“皮下注射型”“貼付（パッチ）型”“経口型”“点鼻型”の 4 種類があります。

皮下注射型や貼付型の場合、健康増進やがん予防目的で用いますが、関節リウマチや喘息、アトピー性皮膚炎などの“自己免疫疾患”の症状緩和目的で使用されるケースもあります。使用方法是基本的に 7 日毎の皮下注射、及び貼付。皮下注射型には、自己注射が簡単に行えるカートリッジタイプも用意されています。

経口型は咽頭部や上部消化管の免疫を高めておくことで、病気に冒されるのを防ぐことが目的で、1 日 3 本まで飲用可能です。

点鼻型は、アジュバントによる消炎効果により、花粉症やアレルギー性鼻炎の症状緩和が期待できます。1 本 1 か月分が目安です。



8 頁でも触れた通り、紫外線対策や水分補給など夏場を健康に乗り切るための日課はいくつかありますが、この夏、それらのルーティンにアジュバント療法を加えてみてはいかがでしょうか。夏が終われば冬は足早にやってきます。年間を通し、アジュバント療法はあなたの健康を守ってくれるでしょう。



皮下注射型
アジュバント
(カートリッジタイプ)

経口型アジュバント
CHORDA（コルダ）

ハスミワクチンをベースに開発された
経口用アジュバント

パッチ型
M-アジュバント

パッチ型のアジュバント。皮膚に貼るだけなので、仕事中でも寝たままでも効果を得られる

点鼻薬スプレー

アジュバントを主成分とした点鼻薬。花粉症にも効果を発揮

「HASUMI 免疫クリニック」のホームページが リニューアル

本年 7 月、「HASUMI 免疫クリニック」のホームページがリニューアルされました。

動画を効果的に用いた臨場感あふれる構成で、「ハスミワクチン」や「免疫細胞療法」などの免疫療法も、わかりやすく解説されています。

「HASUMI 免疫クリニック」の治療内容に興味のある方は、ぜひアクセスしてみてください。

HASUMI 免疫クリニック：<https://hasumi-cl.com/>



世界へ広がるHITV療法

ドイツ最大の州——バイエルン州。地理的にはスイス、オーストリアそしてチェコの国境に接し、人口約 1,300 万人、州都は日本でもおなじみのミュンヘンです。そのバイエルン州に位置するエアランゲン大学（Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg・通称FAU）は、1743 年に設立されてから 270 年以上の歴史を誇り、約 2 万 5 千人の学生と 1 万人を超える教職員を抱えるバイエルン州屈指の名門大学です。

蓮見賢一郎先生は数年前からそのエアランゲン大学との間で、HITV 療法“プロトコール D”の臨床試験に向けての準備を着々と続けてこられました。その重要なステップのひとつとして、臨床試験に用いるための樹状細胞や CTL（細胞障害性 T リンパ球＝キラー T 細胞）等の免疫細胞の製造承認（Manufacturing License）を取得する必要がありました。今年 4 月、その申請が承認。臨床試験へ向けて大切な第一歩を踏み出したことになったわけです。

「製造承認を得たことで、プロトコール D の臨床試験に向けて弾みをつける良い機会になりました。今後も必要な準備を進めていきたいと思います。」（蓮見先生）

臨床試験はフェイズⅠからⅢまであり、Ⅰは治験薬の毒性を調べ、安全性を担保することが目的。Ⅱは少人数の患者様を対象に治験薬の安全性および有効性・用法・用量を調べます。そして、最後のフェイズⅢでは多数の患者様に対して薬剤を投与。実際の治療に近い形での効果と安全性を確認します。エアランゲン大学では、フェイズⅡまで実施したいと蓮見先生は語ります。

エアランゲン大学のゲロルド・シューラー教授は米国法人蓮見国際研究財団が過去に主催した、「国際がんワクチンシンポジウム」にロンドンから参加され、以来、蓮見先生と親交が続いています。またシューラー教授は、2011 年に樹状細胞の研究でノーベル生理学・医学賞を授賞した、米国ロックフェラー大学のスタイン

マン博士がもっとも信頼をおいていた研究者のひとりでもあります。

「今後、二人で協力しながら、米国での臨床試験へと可能性を広げて、ひとりでも多くの進行がんの患者様が救われるよう努力したいと思います」（蓮見先生）

HITV 療法“プロトコール D”が世界へ羽ばたくための滑走路は、すでに準備されていると言っても過言ではないでしょう。



エアランゲン大学より発行された許可証



ドイツ・バイエルン州の州都 ミュンヘン